

平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年8月10日

上場会社名 株式会社 ガーラ

上場取引所 東

コード番号 4777 URL <http://www.gala.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役グループCEO

(氏名) 菊川 暁

問合せ先責任者 (役職名) グループ戦略部 部長

(氏名) ジョーシ ガブリエレ

TEL 03-5778-0321

四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	163	64.1	81		83		75	
29年3月期第1四半期	99	24.7	141		174		171	

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 75百万円 (%) 29年3月期第1四半期 147百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	4.74	
29年3月期第1四半期	10.83	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第1四半期	1,175	377	31.1	23.06
29年3月期	961	458	46.7	28.33

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 365百万円 29年3月期 449百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		0.00	0.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

当期の連結業績予想につきましては、合理的な業績予想の算定が困難であるため記載しておりません。なお、当該理由等は、【添付資料】P.2「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載しております。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	15,854,800 株	29年3月期	15,854,800 株
期末自己株式数	30年3月期1Q	株	29年3月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	15,854,800 株	29年3月期1Q	15,854,800 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料については、決算発表後に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8
3. その他	8
継続企業の前提に関する重要事象等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社及び連結子会社（以下、「当社グループ」という。）の当第1四半期連結累計期間における業績の概況は、連結売上高163,057千円（前年同四半期比64.1%増）となり、大幅な増収となりました。

これは、スマートフォンアプリ事業の売上高が前年同四半期と比較して大幅に増加したことによります。

また、スマートフォンアプリ事業の売上高の増加に伴い売上原価が増加しております。

販売費及び一般管理費につきましては、前年同四半期と比較して人件費の増加があったものの、マーケティング活動費用が減少したことから、減少となりました。

これらの結果、営業損失81,149千円（前年同四半期営業損失141,764千円）、経常損失83,660千円（前年同四半期経常損失174,293千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失75,077千円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純損失171,657千円）となりました。

セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

① 日本

日本セグメントでは、前連結会計年度において、当社が平成28年5月から「Arcane（アーケイン）」英語版のダウンロード配信を、また、連結子会社株式会社ガーラジャパンが平成28年8月より「Arcane（アーケイン）」日本語版のダウンロード配信を開始いたしました。配信開始後の売上高は概ね順調に推移しておりますが、「Arcane（アーケイン）」英語版のダウンロード配信開始が前第1四半期連結累計期間の後半であったため、前年同四半期と比較して売上高（内部取引を含む）は増加となりました。

また、「Arcane（アーケイン）」に係るマーケティング活動費用が、前年同四半期と比較して減少しているため、販売費及び一般管理費が減少いたしました。

これらの結果、日本セグメントにおける売上高は87,325千円（内部取引を含む）と前年同四半期比で64,534千円（283.2%）の増加となり、セグメント損失が37,661千円（前年同四半期は123,519千円の損失）となりました。

② 韓国

韓国セグメントでは、連結子会社Gala Lab Corp.のオンラインゲーム事業で主力ゲームの「Flyff Online（フリフオンライン）」及び「Rappelz（ラベルズ）」において、ユーザーへのアイテム販売減少によるロイヤリティの減収等から売上高が減少いたしました。一方、スマートフォンアプリ事業では、「Arcane（アーケイン）」の運営管理業務収入（内部取引）が増加し、また、「Flyff Legacy（フリフレガシー）」韓国語版を平成29年1月にダウンロード配信を開始したことから売上高が増加いたしました。

費用面では、Gala Lab Corp.が、韓国のRed Sahara Studio Inc.が開発したRPGゲーム「Immortal Warrior（日本リリース名：エターナルヒーロー）」のMMORPG版を開発することとなり、開発に係る人件費等が増加したため、前年同四半期と比較して販売費及び一般管理費が増加いたしました。

これらの結果、韓国セグメントの売上高は99,575千円（内部取引を含む）と前年同四半期比で6,785千円（7.3%）の増収となり、セグメント損失が40,831千円（前年同四半期は18,907千円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて80,967千円減少し、377,534千円となりました。

主な増減は、資産では、現金及び預金が145,934千円減少した一方で、未収入金が181,986千円、長期前払費用が163,481千円増加いたしました。負債では、未払金が145,757千円、長期前受収益が156,566千円増加いたしました。純資産では、資本剰余金が13,069千円、利益剰余金が75,077千円減少いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、スマートフォンアプリ事業における、アプリの開発やダウンロード配信が予定どおりに進まない可能性や、ダウンロード配信開始後のアプリによる課金収入の予測が極めて困難であり、また、オンラインゲーム事業における、既存タイトルのバージョンアップによる業績予想が極めて困難であることから、業績予測の公表を差し控えていただいております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	558,138	412,203
売掛金	79,956	59,299
前払費用	22,814	17,879
未収入金	—	181,986
その他	1,866	7,318
貸倒引当金	△305	△254
流動資産合計	662,470	678,433
固定資産		
有形固定資産	5,262	4,950
無形固定資産		
ソフトウェア	102	84
ソフトウェア仮勘定	147,925	187,382
権利金	25,037	22,033
その他	6,079	5,887
無形固定資産合計	179,145	215,387
投資その他の資産		
投資有価証券	460	541
長期貸付金	84,569	83,219
敷金及び保証金	6,412	6,377
長期前払費用	20,432	183,913
破産更生債権等	23,062	23,062
貸倒引当金	△20,303	△20,303
投資その他の資産合計	114,634	276,810
固定資産合計	299,041	497,148
資産合計	961,512	1,175,581
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,759	2,759
未払金	109,825	255,582
未払費用	54,470	49,006
前受金	56,596	51,810
前受収益	33,898	32,661
未払法人税等	1,240	310
その他	4,385	4,610
流動負債合計	263,175	396,740
固定負債		
長期前受収益	100,023	256,590
繰延税金負債	64	88
退職給付に係る負債	97,635	103,172
長期預り保証金	42,111	41,455
固定負債合計	239,834	401,306
負債合計	503,010	798,047

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,101,527	3,101,527
資本剰余金	1,657,072	1,644,002
利益剰余金	△3,813,780	△3,888,857
株主資本合計	944,819	856,672
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	145	201
為替換算調整勘定	△495,815	△491,337
その他の包括利益累計額合計	△495,669	△491,135
新株予約権	8,288	2,607
非支配株主持分	1,064	9,389
純資産合計	458,501	377,534
負債純資産合計	961,512	1,175,581

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	99,373	163,057
売上原価	25,738	58,847
売上総利益	73,635	104,210
販売費及び一般管理費	215,399	185,359
営業損失(△)	△141,764	△81,149
営業外収益		
受取利息	780	1,273
その他	21	603
営業外収益合計	801	1,877
営業外費用		
支払利息	1,493	613
為替差損	31,832	3,775
その他	4	—
営業外費用合計	33,331	4,388
経常損失(△)	△174,293	△83,660
特別利益		
固定資産売却益	—	193
新株予約権戻入益	—	5,680
特別利益合計	—	5,873
税金等調整前四半期純損失(△)	△174,293	△77,786
法人税、住民税及び事業税	1,660	1,137
法人税等合計	1,660	1,137
四半期純損失(△)	△175,954	△78,924
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4,296	△3,847
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△171,657	△75,077

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純損失(△)	△175,954	△78,924
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18	55
為替換算調整勘定	28,209	3,581
その他の包括利益合計	28,227	3,637
四半期包括利益	△147,726	△75,287
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△142,281	△70,543
非支配株主に係る四半期包括利益	△5,444	△4,743

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社及び連結子会社（以下、「当社グループ」という。）は、前連結会計年度において営業損失399,809千円及び親会社株主に帰属する当期純損失404,809千円を計上しております。また、当第1四半期連結累計期間において売上高が前年同四半期に比べて64.1%増加し、163,057千円となったものの、営業損失81,149千円及び親会社株主に帰属する四半期純損失75,077千円を計上しております。現在の低迷した売上状況が継続すれば営業損失が継続し資金繰りに懸念が生じる可能性があります。当該状況等により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を早期に解消又は改善すべく、以下の対応策を実施してまいります。

まず、スマートフォンアプリ事業において、ゲームアプリ「Arcane（アーケイン）」のライセンスを獲得し、サービスを提供しております。また、自社グループ開発のゲームアプリ「Flyff Legacy（フリフレガシー）」日本語版の提供準備を進めております。さらに、自社グループ開発のPCオンラインゲーム「Rappelz（ラペルズ）」を題材としたゲームアプリ、及び、他社RPGゲーム「Immortal Warrior（日本リリース名：エターナルヒーロー）」のMMORPG版の早期開発を目指します。これらにより、提供するゲームアプリを増やし、スマートフォンアプリ事業の収益化に向けて注力してまいります。

以上の施策を実施するとともに、今後も引続き有効と考えられる施策については、積極的に実施してまいります。

しかしながら、これらの改善策を実施してもなお、今後の売上高及び利益の回復は、スマートフォン向けアプリの開発の進捗状況、市場投入の時期、市場での競争激化による環境の変化等に左右されることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、当社グループの四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	韓国	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	15,178	84,195	99,373	—	99,373
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	7,613	8,594	16,207	△16,207	—
計	22,791	92,789	115,581	△16,207	99,373
セグメント損失(△)	△123,519	△18,907	△142,427	663	△141,764

(注) 1. セグメント損失の調整額663千円は、セグメント間取引消去663千円であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	韓国	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	80,570	82,487	163,057	—	163,057
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	6,755	17,087	23,842	△23,842	—
計	87,325	99,575	186,900	△23,842	163,057
セグメント損失(△)	△37,661	△40,831	△78,492	△2,656	△81,149

(注) 1. セグメント損失の調整額△2,656千円は、セグメント間取引消去△2,656千円であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社及び連結子会社(以下、「当社グループ」という。)は、前連結会計年度において営業損失399,809千円及び親会社株主に帰属する当期純損失404,809千円を計上しております。また、当第1四半期連結累計期間において売上高が前年同期四半期に比べて64.1%増加し、163,057千円となったものの、営業損失81,149千円及び親会社株主に帰属する四半期純損失75,077千円を計上しております。現在の低迷した売上状況が継続すれば営業損失が継続し資金繰りに懸念が生じる可能性があります。当該状況等により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループでは、当該状況を早期に解消又は改善すべく対応策に取り組んでおりますが、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。なお、継続企業の前提に関する事項及びその対応策に関しましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(継続企業の前提に関する注記)」に記載しております。